

一般の部(自由題) 大会賞

夏井いつき 選

花嫁の

ピアノを運ぶ

枯野原

愛媛県

杉野祐子

【講評】

蕭条と広がる枯野を黒いピアノが  
静々と運ばれていきます。シヤガー  
ルの絵画のような花嫁の表情が思わ  
れて、心惹かれる作品です。

一般の部(盛岡題)

盛岡市長賞

白濱一羊 選

春の雲

「もりおか」の字の  
やはらかく

盛岡市

工藤帽子

【講評】

盛岡駅正面外壁に掲げられている「もりおか」の文字は、啄木の自筆から集字したもの。をの筆蹟は「春の雲」のように自由で穏やか。

一般の部(自由題) 大賞

太田土男 選

# 母の襁褓

持ち重りして

## 冬夕焼

千葉県

五十月彩

### 【講評】

襁褓をする母。買った大きな荷を提げて夕焼を眺めながら母の一生を思う。「持ち重り」に哀しみが籠もる。冬の夕焼が胸にしみる。

一般の部(自由題) 大賞

高野ムツオ 選

噴水が

止まり夜空の

広がれり

山形県

菊地みさ子

【講評】

絶え間なく上っていた噴水が止まった瞬間の感受。無限に広がる夜空が今生まれ出たばかりのように新鮮に感じられたのである。

ジュニアの部 大会賞

白濱一羊 選

つまんない

授業をよそに

山笑う

二戸市

石輪咲桜

【講評】

退屈な授業に飽きて、窓の外へ視線を向けた作者。春の芽吹きはじめた山の容姿は、作者を誘うようである。

ジュニアの部 文京区長賞

工藤玲音 選

雪だるま

ふわふわの雪で

作るんだ

盛岡市

平塚心温

【講評】

自分だけの発見やわくわくがある句を選びましたがこの句の実感はぴかいち。さらに季語を知り、俳句をもっと楽しんでほしいです。

ジュニアの部 大賞

及川真梨子 選

石焼き芋

わたしを包む

空気かな

二戸市

小笠原偲留

【講評】

ほっこりと石焼き芋を割って食べた  
んですね。空気という言葉で、湯気や  
美味しい匂いがあたりに行き渡って  
いくのを感じます。